

# 蚊の発生防止を心がけましょう！

蚊に刺されると、「腫れ」や「かゆみ」が生じるだけでなく、蚊が媒介する感染症にかかる恐れがあります。代表的な蚊媒介感染症として、デング熱、マラリア、ウエストナイル熱、日本脳炎等があります。日本で流行していない感染症でも、海外の流行地で感染した人（日本人帰国者や外国人旅行者）や航空機内に侵入した蚊によってウイルスが持ち込まれる可能性もあります。

蚊が媒介する感染症を未然に防ぐには、日頃から蚊の対策を行うことが重要です。蚊の生態や発生場所を知ることにより、蚊が発生しにくい環境づくりを心がけましょう。

## 主な蚊の種類と生態

### アカイエカ(イエカ類)



写真提供：国立感染症研究所

- 成虫は全身が赤褐色である。
- 主に夜間、屋内で吸血する。
- 主に幼虫（ボウフラ）は、雨水マスや側溝などの水が停滞している場所で発生する。
- ウエストナイル熱などを媒介する。
- 活動範囲は広く、1日に数km飛ぶこともある。

### ヒトスジシマカ(ヤブカ類)



写真提供：国立感染症研究所

- 成虫は全身が黒く背中に白い筋があり、脚部は縞模様である。
- 主に日中、屋外（公園、草むらなど）で吸血する。
- 主に幼虫（ボウフラ）は、空き缶や植木鉢の水受け皿など比較的小さい水たまりで発生する。
- デング熱などを媒介する。
- 活動範囲は狭く、1日に50～100m程度。

蚊は卵を水面に産み、水中で幼虫（ボウフラ）になり、10～14日間ほどで成虫になります。成虫のうち、メスだけが産卵のために栄養源として吸血します。成虫の寿命は1ヵ月ほどで、この間にメスは吸血と産卵を3～4回繰り返します。

## 蚊の防除対策

殺虫剤による成虫の駆除は一時的な効果しかありません。また、殺虫剤の使い過ぎによる人体や環境への影響も考える必要があります。殺虫剤はあくまでも補助的に使用し、蚊の発生自体を抑え、蚊に刺されない対策を行うことが大切です。

## 成虫対策～蚊を寄せつけない！～

- 屋内への蚊の侵入を防ぐ  
網戸の破れを修理したり、扉や窓の開閉時間を短くしましょう。
- 蚊が潜む場所をつくらない  
雑草や樹木は定期的に刈り取り、風の通りをよくしましょう。
- 蚊に刺されない  
肌の露出を減らし、虫よけスプレーや蚊取り線香などを上手に使いましょう。



## 幼虫対策～蚊を発生させない！～

蚊は水たまりがあると発生しやすくなります。蚊の発生源となる場所がないか定期的に点検しましょう。

### check!

- 空き缶やペットボトル、空きビンなどが放置されていませんか。
- 植木鉢の水受け皿に水が溜まっていませんか。
- バケツやジョウロに残り水はありませんか。
- ビニールシートのたるみに水が溜まっていませんか。
- 雨どいや側溝が詰まって水が溜まっていませんか。
- 雨水マスを適切に管理していますか。
- お墓の花立てや水鉢に水が溜まったままになっていませんか。



### こんなところが蚊の発生源(例)



雨水マス



汲み置き水・シートのたるみ



お墓の花立て・水鉢

- 不要な水たまりをなくす  
水が溜まりやすいものは、雨のあたらない場所に片付けましょう。  
溜まった水は週に1回は捨てましょう。
- 定期的に清掃・水の交換をする。  
雨水マスなどはこまめに点検と清掃を行い、水の流れをよくしましょう。  
汲み置き水は週に1回は水を取り換えましょう。

### お問合せは・・・

東大阪市保健所環境薬務課

〒578-0941 東大阪市岩田町 4-3-22-500

TEL：072-960-3804 FAX：072-960-3807